The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞伊井春樹編『日本古典文学研究の新展開』
Author(s)	木下, 美佳
Citation	語文. 2011, 97, p. 69-70
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69187
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

紹　介

伊井春樹編『日本古典文学研究の新展開』

木下美佳

本学名誉教授　伊井春樹先生が、二〇一一年一月に古稀を迎えられた。本書は、先生の古稀をお祝いして、企画・刊行された論文集である。本書の構成は次の通りである。

【第Ⅰ部　古代・中世の漢詩・和歌】応制詩の述懐―勅撰三集から菅原道真へ―　滝川幸司／拾遺集賀部・雑賀部の配列と屏風歌　田島智子／正宗敦夫旧蔵升底切本『金葉和歌集』考　海野圭介／八代集の梅香詠―春部の〝恋歌〟を中心に―　胡秀敏／「なでしこ」「とこなつ」考―歌ことばとしての変遷―　佐藤雅代／『久安百首』部類本の編纂について　佐藤明浩

【第Ⅱ部　古代・中世の日記・物語】「さ夜ふけてかくやしぐれのふりは出づ」兼家に対する道綱母―『蜻蛉日記』上巻57番歌の場面―　堤和博／和歌の書記法　加藤昌嘉／日本語史上の大島本源氏物語　中村一夫／新出『源氏物語（若菜上・残巻）』と本文分別に関する一考察　伊藤鉄也／陽明文庫蔵近衛信尹他寄合書『源氏物語』の資料的価値　川崎佐知子／『奥入』を書き加える／切り離すということ　中川照将／『物語二百番歌合』の本文―冷泉家時雨亭文庫蔵『源氏和歌集』との関係―　岩坪健／現存『海人の刈藻』の性格―『源氏物語』享受を視点として―　藤井由紀子／『弁内侍日記』論―糾える言葉の連鎖―　阿部真弓／『天狗の内裏』考―物語構造と諸本の生成―　箕浦尚美

【第Ⅲ部　中世以降の諸文献】『竹僠眼集』について―狛氏嫡流の楽書―　中原香苗／地蔵寺蔵『三宝感応要略録』の書き入れについて―蓮体が見たもの―　山崎淳／今治市河野美術館蔵「不知夜記」（仮題）をめぐって―付・天理図書館蔵『阿仏記』のこと―　松原一義／寛文年間の五山の文事―後水尾院の「西湖詩」をめぐって―　中本大／森鷗外訳「玉を懐いて罪あり」覚書―その訳出の方向性について―　藤田保幸

本書の執筆は、主として大阪大学大学院で伊井先生に直接教えを受け、学位を取得した方々に限られている。しかし、本書がバラエティー豊かで充実した内容であることは、この目次を一見しただけでもうかがえよう。本書に収められている論考は、『日本古典文学研究の新展開』という書名にふさわしく、諸氏の幅広い視野とそれまでの研究の成果により、日本古典文学研究への新たな問題意識が喚起されたものになっている。

伊井先生のご指導を受けた諸氏は、学会の最先端を牽引している方々ばかりである。このような各時代・分野で活躍している研究者が輩出されたのも、伊井先生の、幅広い視点と、学識の深さによるものであろう。

二〇一一年三月に、伊井先生の古稀をお祝いする会が催された。その際、伊井先生から、逸翁美術館の春季展「与謝野晶子と小林一三」の図録と、御著書『与謝野晶子の『源氏物語礼賛歌』』をいただいた。この御著書は、図録の原稿を書いているうちに、解

説のスペースだけでは物足りなくなり、それならば本一冊を書いてしまおうということで、二週間で仕上げられたそうである。先生の変わらぬ仕事の速さには、ただただ感服するばかりである。

とても古稀を迎えられたとは思えないほどのご壮健ぶりである。先生の、益々のご活躍とご健康をお祈りする。

（笠間書院、二〇一一年三月刊、五一六頁、一二、六〇〇円）

（きのした・みか　本学特任研究員）